

「統計情報のXML利用環境の整備に関する調査」

第 2 回「統計XML化等調査研究委員会」議事概要

平成 22 年 1 月 14 日（木）

13 時 30 分～16 時 00 分

於：伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

霞ヶ関オフィス セミナールーム A

出席者	委員	情報セキュリティ大学院大学 教授 廣松 毅（委員長） 経済産業省 CIO 補佐官 永井 道人 早稲田大学理工学術院 教授 山名 早人 一橋大学経済研究所 教授 安田 聖
	事務局	経済産業省 調査統計部統計情報システム室長 湯原 孝志 経済産業省 調査統計部統計情報システム室 参事官補佐 町田 昇 経済産業省 調査統計部統計情報システム室 係長 三川 幸英
	株式会社万葉	代表取締役社長：プレゼンター 大場 寧子
	CTC	森田、鎌田、内田、大場、宮本
	NRC	高島（司会進行）、近藤、速記者
	オブザーバー	経済産業省 調査統計部（5名）

1. 開会

2. 公的統計の整備に関する基本的な計画についての説明

3. 統計データ利活用アンケート調査結果の中間報告

4. ヒアリング調査実施について

現時点で回収したアンケート回答の内容を確認し、ヒアリング対象の選定、また、ヒアリング調査の項目等を検討、修正し調査を実施する。

- 公表レベルにおいての XML 利用環境の調査では、現状の CSV 等の形式での提供で満足しているとの結果しか出てこない。ヒアリングの質問項目において、具体的なメリットを上げる等の配慮をするべき。
- アンケートの回答で、海外の統計データを活用しているとしている者がある。ヒアリング対象に加えること。
- アンケートの回答は無いが、メディア関連のデータ利活用状況を知りたいので、ヒアリング対象にすること。
- 今後回収されるアンケートの中に興味深い回答があれば、ヒアリング対象とする。

5. XMLに関する技術動向についての説明

大場氏からの説明後に以下の質疑を実施。

○XML の良い面の話を伺ったが、逆の面はないか。

→ データが冗長なので処理が重い点。

○XML の課題として、セキュリティは省く事のできない議論である。具体的な事例など、業界団体の取り組みの中でセキュリティとしてはどんなことがあるか。

→ 電子署名をつけ、元の情報が改ざんされていないことを保証するという技術がある。暗号化をするとすると、XML のレベルより上位の話で、HTTPS 等の暗号通信を使用する。XML 自体で改ざんされていないことを確認するための仕組みとして XML Signature の採用がある。

○海外も含めて、共通化することでうまくいった場合と、普及していない場合があるとの事だが、うまくいくケースはどのように実施しているのか。

→ 身近な例では、Amazon は成功している例ではないか。

○今回、我々が想定している将来の基盤のイメージはビジネスマンの目から見た場合、利用者側で新規のビジネスニーズはあると考えられるか。

→ データの加工サービスについてその可能性はあると思う。

○データベースとしては XML データベースを使用するより、リレーショナルデータベースを使用することが多いのか。

→ 多い。XML データベースを使うこともあるが遅い。フォーマットの柔軟性を最重視して、統一的なデータベースに入れ難いということであれば別だが、ある程度形が決まっているものは、リレーショナルデータベースをベースにして外側で XML にするという方が良い。

6. システム基盤技術調査の進捗報告

システム基盤技術調査の進捗を確認し、以下の修正を加え継続して調査を実施。

○クラウドについて、海外に調査票情報を保管することはありえない。対象は国内のサービスに限定してよい。

○フィードバック機能が個票データを出すような誤解を与えることが懸念されるので、整理すること。

○「オーダーメイド集計」の意味が、一般的なものと異なっている。また、「個票データ」という表現は現在は使用していない。他の用語も含めて、本調査研究内で用いる用語の整理と定義をしておくべき。

7. 報告書の骨子(目次)について

以下の点を修正し、報告書作成を進める。

- XML に関する項目について、項目立てをする。
- 報告書の最後に各委員からのコメントを記載する。
- XML の利活用という点を、目次レベルでも分かるようにする。

8. 第3回調査研究委員会の予定

第3回調査研究委員会の日程（2月18日（木） 午後2時から4時）を確認。

9. 閉会

以上